

土地利用計画図

開発許可
年月日

第 令和 年 月 日
号 日

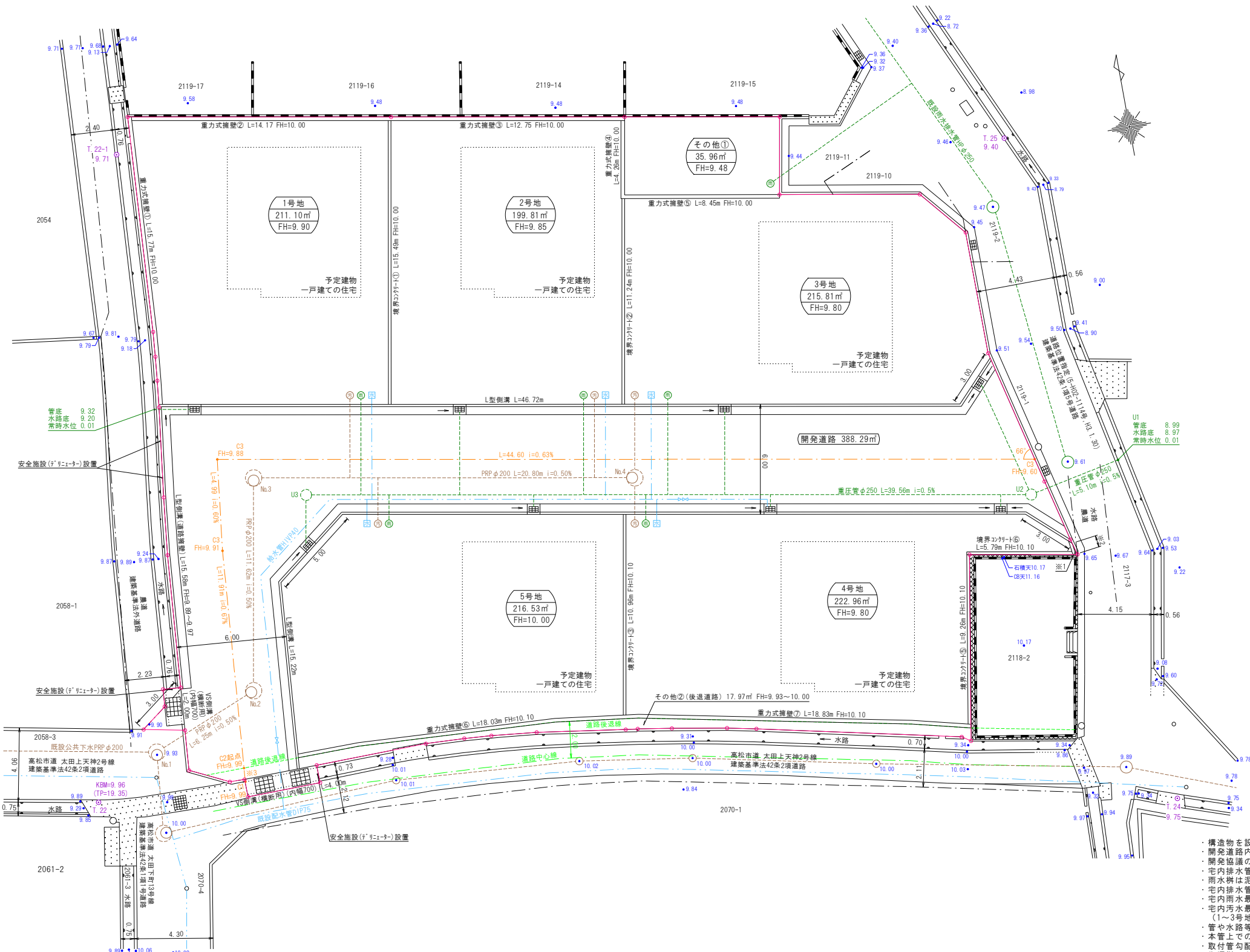
申請者

株式会社ライフィックス
代表取締役 向井信朝

作成者
住所・氏名

高松市川島本町式八八番地
土地家屋調査士 横井智

(印)



凡例

○	開発区域
○	汚水 汚水 200 (取付管 VUφ150) (1.0%以上)
○	雨水 雨水 350 (取付管 VUφ150) (1.0%以上)
○	街路樹 (取付管 VUφ150) (1.0%以上)
○	量水器 (給水管φ20HIVP)
○	仕切弁
○	ドレンバルブ φ25
○	開発道路中心線

1号地	汚水	VU	150	4.00	15.54	(0.65)	(0.80)
雨水	VU	150	4.94	3.00	(0.35)	(0.67)	
2号地	汚水	VU	150	4.00	2.20	(0.65)	(0.80)
雨水	VU	150	4.94	15.14	(0.34)	(0.66)	
3号地	汚水	VU	150	4.00	0.00	(0.65)	(0.80)
雨水	VU	150	4.94	19.74	(0.33)	(0.65)	
4号地	汚水	VU	150	2.00	0.00	(1.05)	(1.20)
雨水	VU	150	1.07	18.54	(0.37)	(0.69)	
5号地	汚水	VU	150	2.00	14.01	(1.05)	(1.20)
雨水	VU	150	1.07	4.53	(0.39)	(0.71)	

- ・構造物を設置しない開発区域には、境界標識を設置すること。
- ・開発道路内で土被り60cm未満の箇所は管保護を行う。
- ・開発協議の対象は最終樹から一次放流先までとする。
- ・管内排水管の勾配は原則1%以上とする。
- ・雨水管は泥溜を15cm以上確保すること。
- ・管内排水管の土被りは20cm以上確保すること。
- ・管内雨水最終樹(φ350)については、深度 900mmまでとする。
- ・管内汚水最終樹はφ200フリーインバートマスを使用する。
- ・(1~3号地はH=800、4号地5号地はH=1200)
- ・管や水路等が交差する場合、クリアランスを最低10cm以上は確保する。
- ・本管上での取付管間隔は、1m以上とする。
- ・取付管勾配は1%以上とし、断面方向の接続位置は本管の中心線より上方とする。
- ・街路樹のグレーチングの耐荷重は、5.5m以上の道路でT-25、5.5m未満の道路でT-14とする。
- ・自由勾配側溝のコンクリート蓋及びグレーチングの耐荷重はT-25を使用する。
- ・自由勾配側溝について、道路横断面は横断用、その他の箇所は標準用で施工する。
- ・マンホール蓋は、浮上防止型で市指定型を使用する。
- ・(5.5m以上の道路…T-25、5.5m未満の道路…T-14)
- ・マンホールはインバート処理を行う。
- ・マンホールでの管きよ接続の削孔間士の間隔(残り代)は内側で10cm以上確保する。
- ・本管がPRPの場合、マンホール可とう継手を使用する。
- ・本管が重圧管の場合、支管接合を行う。
- ・図面の高さの表記は任意高さとし、KBMで標高(TP:表示)換算している。
- ・No.1~No.4のマンホールは組立1号マンホール (No.1は既設)。
- ・U2, U3のマンホールは組立排除す。

※1 位置指定道路用地 0.03㎡ FH=9.67~9.68
 ※2 境界コナット④ 0.63㎡ FH=9.67~9.68
 ※3 L=0.75m i=Level